

アンダマン海の狩猟採集民
サロンの子どもたち

大妻学院 創立110周年
人間生活文化研究所 記念事業

大妻女子大学博物館 特別展



東南アジア

2019.3.4.mon ▶ 5.18.sat

狩猟採集民の生活と

子どもたちの発育発達

文明は
人の身体から
何をうぼうのか

The Daily Life of Hunter-gatherers
and Growth and Development of Childhood
in Southeast Asia

開館時間 | 10時～16時30分

休館日 | 日曜日

入館料 | 無料

場所 | 大妻女子大学博物館

主催 | 大妻女子大学人間生活文化研究所
TEL: 03-5275-6047 MAIL: info@o-ihcs.com

大妻女子大学博物館
TEL: 03-5275-5739

共催 | 国立民族学博物館

後援 | 駐日ミャンマー連邦共和国大使館

公式サイト | <https://www.ihcs.otsuma.ac.jp/otsuma110>



かつて幻の民といわれた
ムラブリの青年たち

| | | |
|-----|-----|---|
| 3/4 | 月 | ● |
| 5 | 火 | ● |
| 6 | 水 | ● |
| 7 | 木 | ● |
| 8 | 金 | ● |
| 9 | 土 | ● |
| 10 | 日 | ● |
| 11 | 月 | ● |
| 12 | 火 | ● |
| 13 | 水 | × |
| 14 | 木 | ● |
| 15 | 金 | ● |
| 16 | 土 | ● |
| 17 | 日 | × |
| 18 | 月 | ● |
| 19 | 火 | ● |
| 20 | 水 | ● |
| 21 | 木・祝 | × |
| 22 | 金 | ● |
| 23 | 土 | ● |
| 24 | 日 | × |
| 25 | 月 | ● |
| 26 | 火 | × |
| 27 | 水 | ● |
| 28 | 木 | ● |
| 29 | 金 | ● |
| 30 | 土 | ● |
| 31 | 日 | × |
| 4/1 | 月 | ● |
| 2 | 火 | ● |
| 3 | 水 | ● |
| 4 | 木 | ● |
| 5 | 金 | ● |
| 6 | 土 | ● |
| 7 | 日 | × |
| 8 | 月 | ● |
| 9 | 火 | ● |
| 10 | 水 | ● |
| 11 | 木 | ● |
| 12 | 金 | ● |
| 13 | 土 | ● |
| 14 | 日 | × |
| 15 | 月 | ● |
| 16 | 火 | ● |
| 17 | 水 | × |
| 18 | 木 | ● |
| 19 | 金 | ● |
| 20 | 土 | ● |
| 21 | 日 | × |
| 22 | 月 | ● |
| 23 | 火 | ● |
| 24 | 水 | × |
| 25 | 木 | ● |
| 26 | 金 | ● |
| 27 | 土 | ● |
| 28 | 日 | ● |
| 29 | 月・祝 | ● |
| 30 | 火・休 | ● |
| 5/1 | 水・祝 | × |
| 2 | 木・休 | × |
| 3 | 金・祝 | ● |
| 4 | 土・祝 | ● |
| 5 | 日・祝 | ● |
| 6 | 月・休 | ● |
| 7 | 火 | ● |
| 8 | 水 | × |
| 9 | 木 | ● |
| 10 | 金 | ● |
| 11 | 土 | ● |
| 12 | 日 | × |
| 13 | 月 | ● |
| 14 | 火 | ● |
| 15 | 水 | × |
| 16 | 木 | ● |
| 17 | 金 | ● |
| 18 | 土 | ● |

東南アジア 狩猟採集民の生活と 子どもの発育発達

文明は
人の身体から
何とようぼうのか

私たちは飛行機やヘリコプターを使ってヒマラヤの氷河に行き、衛星電話を使えば東京と直接話をする事ができるような、高度に便利な社会に生きています。これからも時代の歯車は不可逆的にまわり続けてゆき、生活はますます便利になり、文明がもたらす恩恵をさらに享受できるようになるでしょう。

しかし、地球上には文明世界の片隅で、時間が停止したように1万年前とほぼ変わらないライフスタイルを続けている狩猟採集民も存在しています。彼らは、今でも農耕や牧畜を行わず、歴史の外側でひっそりと生き続けています。彼らは深い森や人跡の絶えた山地、あるいは海洋に点在する島々など、人目につかない環境に身を置き、細心の注意と警戒心をもって外部世界と距離をおき、少しでも危険を察知したらすばやく姿を隠してきました。それゆえに、私たちは彼らを幻の民などと呼んで、神秘的な存在として理解してきました。彼らは、探検家や研究者にとっては長い間大変魅力ある存在でした。現代人が遠い過去に通り返ってしまった段階のライフスタイルを実際に今も行っているわけですから、彼らを知ることは私たちの祖先の生活や行動、生存適応戦略を知る上での貴重なヒントとなり得ます。

私たちは、彼ら狩猟採集民の生活と生態を何とか知りたいということから、アジアの山地、森林、海洋などに彼らを対象としたフィールド調査を企画し、おおよそ12年間にわたって、データ、資料を積み上げてきました。

今回の特別展でご紹介するのは、ミャンマー連邦共和国のアンダマン海の洋上で生涯を過ごすサロン(モーケン)と、タイ王国のナーン県の山地を遊動してきたムラブリ(ピートンルアン)です。サロンについては、ミャンマー国内の調査が不可能であるために今まで科学的なデータの蓄積はありませんでした。私たち以外に調査隊は入っておりません。今回の展示は、世界で初めての資料展示ということになります。一方のムラブリは、近年定住化が進んでいます。ここでは、移動民が定住化の過程で環境にどのように適応してゆくのかという、学術的には非常に重要な問いの解明に期待が寄せられております。

これらの展示を通じて、来館の皆様が「人間とは何か?」を考える機会にしてくださいることを願っております。

会期中のイベント

講演1

日本発育発達学会会長講演 大澤 清二
アジアの山地民、狩猟採集民の子どもはどのように育つのか
—発育発達科学研究の45年—

日時: 3月9日(土) 10時~11時45分
場所: 大妻女子大学A棟150室(東京都千代田区三番町12)

講演2

大妻女子大学図書館ラーニングcommonsイベント
大澤 清二(大妻女子大学人間生活文化研究所所長)
将来の日本人の身体はどうなるのか
—狩猟採集民、山地民の生活から日本人の未来を予想する—

日時: 4月20日(土) 13時~15時
場所: 大妻女子大学図書館(東京都千代田区三番町7-8)

[イベントに関するお問合せ]
大妻女子大学人間生活文化研究所 03-5275-6047



[上段] 森の急斜面を軽々と分け入るムラブリの青年
[中段・左] ムラブリの数少ない物質文化、籠 [中段・中央] ムラブリの貴重な狩猟具、槍
[中段・右] サロンの洋上の住まい、カバン
[下段] 人の手が入っていないドンニョンマイの美しい海浜

大妻女子大学博物館

〒102-8357
東京都千代田区三番町7-8
大妻女子大学 図書館棟地下1階(区立九段小学校前)
TEL: 03-5275-5739

- ◆ JR総武線「市ヶ谷駅・地上改札口」より徒歩10分
- ◆ 東京メトロ有楽町線・南北線、都営地下鉄新宿線「市ヶ谷駅・A3出口」より徒歩10分
- ◆ 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅・5番出口」より徒歩7分
- ◆ 東京メトロ東西線「九段下駅・2番出口」より徒歩12分

